



国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎
副会長 金子 功
書記 金子 功
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 奥菌 一紀

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立 90 周年の恵みの中、YMCA と共に未来を開く」

“Blessing of club 90th anniversary, open the future with YMCA”

<今月の聖句>

押川 沢江

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイによる福音書 1 章 23 節)

今月のひとこと

「金子さんとの思いで」

田口 努



先月 11 月のブリテン「今月のひとこと」を書いた金子功さんが、11 月 23 日ご逝去されました。謹んでご冥福を祈ります。11 月の例会と役員会にもオンラインで出席し、21 日にもワイズの連絡をメールされていたとのことで、最後までワイズメンとして奉仕の業を实践されたことを知らされました。

私が横須賀 YMCA の館長になった 1994 年に、金子さんと出会いました。少年時代の YMCA 体験が金子さんの人生に大きな影響を与え、その後米国留学中に米国 YMCA でデイキャンプのリーダーを経験された後、国連などに勤め、帰国後はカナダ大使館で働かれた事をお聞きし、横須賀 YMCA の

運営委員になっていただいたのを思い出します。その少し前には、息子さんも進学事業のアドバイザーというリーダー活動に参加していました。

翌年の 1995 年は阪神淡路大震災が起きた年で、横須賀 YMCA で災害ボランティアの支援やレーナマリア復興支援コンサートの開催、発達障がい支援プログラム開始など、若気の至りで様々なことにチャレンジする私をはじめ、スタッフの皆さんを励まし支えていただきました。

どの活動にも金子さんは誠実に、そして積極的に意見を述べられ適切な指摘とアドバイスの上、後押しをしてくださいました。いつも若者をバックアップする姿勢で、「いつも笑顔でいいですね」と品の良い言葉かけをくださり私たちを励ましてくれたと思います。少年部の時にレイパーソンの方の差し入れが本当に嬉しかったからと思い出を語られ、よくリ

押川メネット 今月の聖句について

イエスさまが宣教を開始した際、未知なる、得体の知れない存在として、ユダヤ教の指導者たちが徹底的に排除しようとしたことは、新型コロナウイルス感染症に対する社会の反応と重なります。まさに病原菌のような扱いです。しかし、「その名はインマヌエルー神は我々と共におられる」とのイエスさまの名は、神さまは私たちと共にいることを切に望まれるお方であり、そのような在り方でしかいられない、むしろ、密でしかいられないお方であることが示されているのは、何と感謝なことでしょう。どのような状況にあっても、常に私たちと共にいてくださるために人となられたイエスさまに依り頼み、導きに委ねるものでありたいと願います。

<2020年11月例会実績 Zoom 併用開催>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メ 9名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 12名 ゲスト 2名 合計 23名	83 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<12月の行事予定>

EMC/MC

日	曜	時間	行事内容	場所
1	火	19:00	第89回 Y-Ys 協議会	中央 Y+Zoom
12	水	14:00	横浜クラブ第一例会	中央 Y+Zoom
19	土	15:00	横浜 Y クリスマス会	紅葉坂教会+ ライブ配信

ーダーに差し入れを持ってきてくださいました。

当時の横須賀 YMCA 運営委員長は、広瀬誠医師で、岸宗さん、伊藤さんなどがおり、広瀬先生に触発されてミャンマーの医療支援やタイ、パヤオセンターの支援活動に精力的に取り組んでおり、それらのつながりから国際事業委員・委員長や、ミャンマーを草の根で支援する麦の会会長など長く奉仕されました。また、横浜 YMCA の姉妹 YMCA である上海、光州の交流活動にはほぼ皆勤で、一緒に何度も現地に行きました。

インド・ムンバイと南アフリカ・ダーバンでの世界 YMCA 大会にも一緒に参加し、その大会が終わってから、せっかくだからと二人で旅をしました。



ケープタウンで金子功さんと

二人で旅をしました。アフリカ大陸の南端ケープタウンでテーブルマウンテンを旅し、マンデラ大統領が 27 年間の監獄生活のうち 18 年間、獄中生活をしたロペン島を眺めました。旅の最後は金子さん

たつての希望で、首都にあるアパートヘイトの傷が今も残る黒人居留区ソエトのブリキハウスを訪問しました。マンデラさんが蜂起した街で今も治安が悪く、外国人はなかなか近寄れない場所でしたが、当時 JVC 南アフリカ駐在所長が横浜 YMCA 出身者でありソエトで支援活動をしていた関係から

特別に訪ねることができ、ブリキハウスで黒人家族と食を共にしました。そのおばあちゃんとお孫さんに金子さんは大変好かれて、数時間でしたが別れがたい出会いの時でした。黒人の大統領になっても社会システムの変化が遅く、黒人の立場は弱く、底辺で暮らしていることを知りました。

帰国する日は、マンデラさんの誕生日で國中祝う日で、マンデラさんがこの国の希望なのだということを実感し、いい日に来ましたねと金子さんと語り合ったのが昨日のこのように思います。

過去には戻ることはできない、未来や将来も決められたとりにやってくるわけでもない、今をしっかりと生きることという「今日を喜び祝い、喜び踊ろう」詩編 118 篇 24 を思い起こします。金子さん、その日、その時を大切に生きることを買った生涯であったことを思います。最後まで、YMCA、ワイズのこと、出会った人々を思い天に召されましたが、何か今もすぐそばにいるような気がしてなりません。これから私たちの中に生き続けるのだと思います。

「11月第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 11月12日(木) 18:30~20:15
場所 : 中央 Y606 号室 (Zoom 併用)
出席者 : 伊藤、大高、奥園、古賀、齋藤、佐竹、古田、松島
ゲスト : 後藤美紀(横浜 ACT 運営委員)
ビジター : 高田一彦(卓話者、千葉ウエスト)、千葉裕子(鎌倉)、加藤利榮、若木一美(以上、横浜とつか)、佐藤節子(厚木)

Zoom 出席者: 金子

ゲスト : 秋元美春(恵泉女学院名誉教授)
ビジター: 山下真(十勝)、長尾昌男(千葉ウエスト)、神谷幸男(東京西)、日下部美幸(厚木)、鈴木茂、辻剛(以上、横浜つづき)、白井春男(大阪長野)

齋藤ワイズの司会で定刻に開始。古賀会長による開会点鐘と挨拶のあと、ワイズソングは割愛し、ワイズの信条の唱和。聖句の朗読と解説は久しぶりの例会出席となった松島ワイズ、キリスト教は愛の宗教であることを強調された。その後古賀会長によるゲスト・ビジターを初め出席者の紹介では横浜クラブの出席者も紹介された。

今例会のメインイベントは高田一彦ワイズによる「横浜

YMCA、Ys と私」と題する卓話。横浜クラブの創立 90 周年を迎え、ワイズのリジェンド加藤利



マスク姿で卓話中の高田ワイズ

榮ワイズによる 9 月の「ワイズとワタシ」、横浜 YMCA の総主事を 20 数年にわたり務められた吉村恭二元横浜 YMCA 総

主事による10月の「今日の横浜 YMCA の姿を創り上げるために、お導きくださった Ys の方々をしのびつつ」と題する卓話が続く、古賀会長肝いりの温故知新卓話シリーズとも言うべき卓話の第3弾である。

高田さんは横浜クラブ在籍時代、クラブ会長、湘南・沖縄部部长、東日本区理事、アジア会長など次々とワイズの要職を歴任されてきましたが、卓話は横浜 YMCA との出会いから始まり横浜クラブでの役割を追う形で時々のトピックスを紹介されました。その内容はまさに横浜クラブの歴史そのもの。

横浜 YMCA との出会いは1982年、40歳の時に西 YMCA の運営委員に誘われたのが最初。当時、鎌倉 YMCA の運営委員長をされていた牧師の父上と YMCA のおかげで、月1回顔を合わせることになるなど、それまで企業戦士として仕事一辺倒だった生活と違う世界に触れることができた。1990年4月に、加藤利榮さん、重村利幸さん、高杉治興さんらが在籍する横浜ワイズメンズクラブに入会した。

93年に横浜クラブ会長に就任し「創造しようワイズダムの第一歩」をテーマに掲げた。

94年には横浜とつかクラブをスポンサー、これに伴い、加藤利榮ワイズら数名がチャーターメンバーとして移籍した。

95年には49回日本区大会(於、横浜国際会議場)をホスト、97年にはYサ・ASF事業主任に就任、「済州島ユースコンボケーションへのユースの派遣」、「チャリティーランの全国展開」をテーマに協議した。

98年には湘南・沖縄部部长に就任し「まず実践 YMCA と共同で」をテーマに掲げた。

この年の特筆事項は、Y-Ys 協議会が開始されたことと横浜 YMCA 第一回チャリティーランが開催されたこと。横浜 YMCA との Y-Ys 協議会はこの年就任された山根誠之横浜 YMCA 総主事と協力して98年6月に第一回を立ち上げた。以後、年4回毎年実施している。定期的に開催し今でも継続しているのは全国的に見ても唯一だと思う。チャリティーランはチャックウイルソンを大会委員長に98年9月に第一回大会を開催した。余談だが、この時、ゲストとして参加した大相撲の小錦関と握手して、その手の柔らかいのに驚いた記憶がある、とのこと。

2006年には東日本区第10代理事に就任し「平和を目指すワイズ活動」をテーマに掲げた。

横浜クラブから須部浩右ワイズが東日本区書記、神村浩正ワイズが東日本区会計、佐竹博ワイズ(現、横浜 YMCA 総主事)が東日本区連絡主事としてキャビネットに参加した。ご本人によればなんとと言っても思い出に残るのは、伊東での2007年6月の第10回東日本区大会での出来事。理事退任式でコメントの八木こと子さんから花束の贈呈があり涙が止らず感激したことである。(註、横浜クラブブリテン2007年7月号



例会会場の様子、Zoomを調整する奥園ワイズ



Zoom出席者を中央に例会出席者の皆様

に「感涙の父に花束」と題して須部浩右ワイズがこのサプライズを演出した舞台裏を記しておられるので参照ください)

2010年にはアジア会長に就任した。この年の7月には第69回国際大会がパシフィコ横浜の国際会議場を拠点に開催された。横浜での国際大会開催は高田さんが理事時代の2006年に決定したもの。余談になるがこの大会で市民通訳ボランティアとして活躍された大高治さんが5年後の2015年10月に横浜クラブに入会された。当時、アジアエリアで最大勢力を誇った韓国区が独立したのもこの年である。

2011年には家庭の事情で横浜から船橋に引越して横浜まで通っていたが、2017年には千葉クラブに转会した。そこで関東東部のエクステンションに呼応して千葉ウエストクラブを設立した。そのきっかけとなったのは元船橋クラブ会長の鈴木利夫さんの葬儀に出席し、遺影にワイズのバッチが写っているのを見た時であった。

卓話の後は足早にビジネス。90周年記念式典に備えての準備状況等の説明があり、ほぼ定刻に閉会した。本日のロバ献金は7,000円でした。

「第2回部評議会報告」

伊藤 誠彦

日時：11月28日(土) 15:00~16:40

場所：横浜中央YMCA606教室(Zoom併用)

出席者：部評議会構成員28名(内、委任状14名)

内、横浜クラブ：伊藤、大高(委任状)、奥園、古賀、古田

日時：2020年11月28日(土) 15:00~16:40

第2回部評議会は、定刻に開始。冒頭、古田部長より横浜クラブ金子ワイズ召天の知らせがあり、30秒間の黙祷をもって冥福を祈った。

古田部長による開会点鐘、次いで、ワイズソングは割愛し、全員でワイズの信条を唱和した。古田部長の聖書朗読、祈祷、挨拶に続き、定足数確認が行われた。

議事は、古田議長のもとに進められ、次の通り5件の議案は全て承認された。

第1号議案 次期部長選出について(承認)

- 古田部長より、次期部長の検討経緯の説明と共に、若木一美ワイズを次期部長とする提案があり、異論なく承認された。

第2号議案 CS支援金の支給について(承認)

- 鎌倉(幼児サッカー)、横浜とつか(絵本ライブラリー)、横浜つづき(被災地支援)各クラブから申請のあった事業に対する支援金の支給が承認された。

第3号議案 湘南・沖繩部&横浜YMCA合同新年会について(承認)

- 古田部長より、コロナ禍により合同新年会の開催を見合わせたいとの説明があり、異議無く承認された。

第4号議案 沖繩への部長公式訪問について(承認)

- 古田部長より、2021年2月20日に計画していた沖繩への部長公式訪問は、コロナ禍を考慮して、訪問は対面方式ではなくオンラインで行うとの説明があり、異議無く承認された。

第5号議案 部則改正委員会の設置について(承認)

- 古田部長より、部則改正委員会を設置する案が提案され承認された。
- 委員会構成メンバーは、部長(委員長)、部書記、監事(オブザーバー)、各クラブ代表1名よりなる。
- 第3回部評議会(2021年4月17日開催予定)での承認を目標に、2~3回の会合を予定。

議案協議に引き続き、①部長活動報告、②エクステンション委員会報告、③各クラブ会長による活動報告に続いて、監事講



部評議会を仕切る古田部長

評。峯尾監事からは第2号議案のCS支援金制度について、同制度は沖繩クラブ発足時100名以上の入会者があり、部費収入が潤沢になり、部財政に余裕ができたため導入されたものである。現状にはそぐわないため、その廃止も視野に入れて制度の見直しをすることを執行部にお願する、とコメントがあった。

16:40、珍しく定刻前に、部長の挨拶・閉会点鐘でもって閉会となった。

チャリティーラン経過報告

古田 和彦

第23回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランは例年とは違う形で行われています。11月末現在、進行中です。

従来ですと、特定の日に参加者・ボランティアがみなとみらいの公園に集まって、テント張・コース設定など会場準備を行い、走り、応援し、弁当を食し、開会式・閉会式を行っていましたが、今年は様変わり。開会・閉会はオンラインで、競技は一般・幼児とも、定められた期間(11月14日~30日)に各自で設定したコース(公道や歩道は避け、公園や河川敷などのランニングコースを推奨)で決められた距離を走り、1チーム5人分のタイムを申告、申告に基づいて順位をつけるという方式です。

7月以来、開催の仕方などを検討してきた結果が上記の通りです。参加申込チーム数は、幼児コースが25チーム、一般コースが47チームと合計72チームで、予算の70チームをクリアしている状況です。例年かかっていた弁当代などの

経費が掛からないことから、障がい者キャンプを支援することができる収支差額は目標を確保できるのではないのでしょうか。

そのような中、開会に先立ち、わが横浜クラブを含め、ワイズ各クラブは応援メッセージをホームページに掲載しました。11月14日の開会式がオンラインで行われ、大会実行委

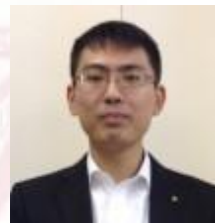


員長の古田ワイズ(湘南・沖繩部長)が開会挨拶を行

いました。これは、事前に録画撮りをしたものです。その後、粛々と進行しています。11月末で競技は終了し、12月7日には閉会式を行う予定です。コロナ禍の中、スタッフの皆さんのご努力で中止することなく、新たな試みで開催できましたことに心から感謝する次第です。

近況「クリスチャニティーについて思うこと」

齋藤 宙也



1 近況とは若干離れてしまうが、ちょうど12月号、すなわち当クラブの90周年という節目の時期にワイズ全体に関わる問題として取り上げる価値があるテーマだと思ったので、これをもって近況に代えたい。

「各クラブの会長に(対する)アンケート調査」というのが東日本区からあったようであり、古賀会長が回答していた。その中で、会員増強のために礼拝やお祈り(以下「礼拝等」という。)を廃止するという話が出ているということである。古賀会長は、これに強く反発している。

2 YMCAはもともとキリスト教系団体なので、礼拝等をするのは当たり前となっている。一方、そのような団体をサポートするものの自身はキリスト教系団体ではないという建前のワイズメンズクラブが、どこまで礼拝等をしていくべきなのかということ(クリスチャニティー)は、古今東西常に議論となるテーマである。

世代の違いか、ノンクリスチャンで、入会したのも偶然的な要素が大きいという文脈があるからか、私自身は、礼拝等があるとなかろうとどちらでもよいというのが本音ではある。そのため、ないから困るとまでは思っていない。しかし、直ちに積極的に消去すべきものかということ、それも勇み足であろうと思う。アンケート結果によると、会員の意見もおおむね3等分されている状態である。もう少し会員の総意の詳細な分析が必要であるように感じられる。

3 アンケートを離れて、もう少し、現実問題として考察してみたい。

YMCAの各種行事や会議では、基本的に全て礼拝等がある。YMCAに本格的に携われれば、その礼拝等に参加することも避けられない。ワイズで行う簡易な礼拝等にすら耐えられないのであれば、いわんやYMCAのサポートには耐

えられない。一方、ワイズの場合、サポート対象がYMCA専門となるので、そういう人がほかのサポートに回るといのが難しい。この点は、他の社交クラブと本質的に異なるワイズの特徴である。

本来、ワイズで礼拝等をする目的の一つとして、YMCAをサポートする前提として会員のキリスト教理解に資するという側面があるであろう。もちろん、それが理想ではある。

ただ、そこまでの境地に達せず、もう少し低い次元で考えても、礼拝等というのは一つの社交儀礼・儀式と割り切るとい考え方もある。その場合、聖書朗読や(本来の意味の)説教は黙って聞き、賛美歌の斉唱や最後の締め「アーメン」は周囲に合わせて声を出すということになる。例えば、キリスト教方式による結婚式の参加者であれば、ノンクリスチャン又は他宗教の信者であっても、通常はこのように対応するはずである。このくらいの心の入れ方であっても、繰り返し礼拝等に接すれば、それ自体によって何かしら得るものはあるように思う。

礼拝等について、最低でもこのような対応すらしたくないというのであれば、よほどこらえ性がない人か、何らかの理由でどうしてもキリスト教(又は宗教全般)が嫌いな人と考えられる。前者であれば、どこの社交クラブに行ってもうまくいかないであろう。後者の場合、YMCAというキリスト教系団体をサポートするという本質を知った時点で入ってこられない(又は抜けてしまう)と思われる。

4 そもそも、礼拝等があるからワイズに入れない=礼拝等さえなければ入れるという人が、それほどいるのであろうか。そのような人が現実に多数存在していることが示されているのか。この点は、疑問がある。

仮にそのような人が本当に相当数実在するのだとしても、礼拝等を廃止することで門戸を広げるといのであれば、ワイズのサポート先は本当にYMCAだけでよいのかということも併せて考えなければならぬであろう。

以上まとめると、私自身は、クリスチャニティーに関する熱量とでもいうのか、礼拝等に関するスタンスは、古賀会長と同じではない。ただ、礼拝等と会員増強を絡める議論に余り意味がないように感じるという点は同調できる。

最後に、東日本区最古のクラブとして、己のクラブがもう少し会員がいる中で「礼拝等廃止はナンセンス」と述べれば、より説得力が増すと思うのだが、当クラブ自身も苦しい状況にあるということがじくじたる思いである。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時: 11月18日(水) 16:00~18:00 (Zoom 例会)

出席者: 伊藤、大高、金子、古賀、古田

(1) 今後の行事予定の確認

(2) 協議・報告事項

① 横浜クラブ創立90周年記念式

・日時: 2020年12月12日(土)

・場所: 横浜中央YMCAチャペル

(プログラム)

《第一部 礼拝》(14:00~14:30)

(司会 押川幸男牧師 奏楽 古賀智子)
・前奏 古賀智子・讃美歌 21 385 番(花彩る春を)
・聖書 ルカによる福音書 2 章 25-35 節
・奨励「光を待ち望む」押川幸男牧師
・お祈り 押川幸男牧師・頌栄 27 番(父・子・聖霊の)
・祝祷 押川幸男牧師・後奏 古賀智子
《第二部 例会》(14:30~15:30)

(司会 伊藤誠彦)

・開会点鐘・ワイズの信条・出席者紹介
・会長挨拶・報告 横浜クラブ会長 古賀健一郎
・来賓者挨拶 東日本区理事 板村 哲也
湘南・沖縄部 部長 古田 和彦
日本YMCA 同盟総主事 田口 努
横浜YMCA 総主事 佐竹 博
・熊本スピリットクラブとのDBCの締結式
・閉会の辞 古賀健一郎
・『写真撮影』

★ 新型コロナウイルスの影響を鑑み懇親会は中止。

★ 礼拝・例会は、人数を限定して、コロナ感染予防対策を施して実施する。

40人規模に限定(会場)

★ ハイブリッド例会(Zoomでの参加を併用)を実施し、多くの参加を呼び掛ける。

特に、IBC・DBC関係者の方々には、Zoomでのご出席を案内する。東日本区のZoom

同時通訳ブースの新機能を活用する。

◎熊本スピリットクラブとのDBCの締結準備(担当は齋藤ワイズ)

◎横浜クラブ創立90周年記念として、横浜YMCAに9万円献金(国際・地域協力募金に当てる予定)

◎当日のチャペル横断看板、(受付)、写真撮影など、横浜YMCAの広報担当の池田直子さんにご相談することにした。

② 『横浜クラブ創立90周年記念誌』のドラフト完成し校正中、12月12日の横浜クラブ創立90周年記念式にて配布予定。

③ 横浜YMCAクリスマス礼拝(12月19日)

・会場 紅葉坂教会(60名まで)

・時間 午後3時~午後4時

★ 今年は新型コロナウイルスの影響で感染症対策の為、三密を避け人数を制限した会場参加またはオンタイムのリモート参加形式

④ 横浜訓盲院と水上学園の2カ所の社会福祉法人へのクリスマスプレゼント

・(これまで贈っていた十勝ジャガイモに代えて)横浜YMCAワークサポートセンター アンジュ制作の『クリスマスクッキー』(予算17,000円/社会福祉法人当たり)を上記2カ所の福祉法人にお贈りすることに決定。

緊急役員会報告

古賀 健一郎

日時: 11月24日(火) 12:30~13:30 (Zoom 例会)

出席者: 伊藤、大高、古賀、古田

★ 強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う ★

計報

かねてより病氣療養中の金子 功さんが、11月23日、天に召されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせ申し上げます。

金子さんは、ワイズメンズクラブにおいては、横浜クラブ会長、湘南・沖縄部部長を歴任されました。また、横浜YMCAにおいては、横浜YMCA常議員、国際事業委員長、横須賀YMCA運営委員長、NPO法人YMCAコミュニティサポート理事を歴任されました。

病氣療養中の金子さんは、11月12日のクラブ11月例会と11月18日のクラブ役員会にZoomにて出席され、最後に拝受したメールは、11月21日でした。

金子さんが、ワイズ・YMCAに、いかに献身的に誠実に、その奉仕活動に尽くされた方であったかを、身近にいた横浜クラブの私たちは実感しておりました。

金子さんのこれまでの献身的なお働き、特に国際事業、地域事業でのご尽力は多大なものがありました。横浜YMCAと(韓国)の光州YMCAとは約40年の交流の歴史がありますが、その光州YMCA創立100周年の記念式が先日の10月に開かれ(横浜YMCAは動画のオンラインで参加)、その記念式で、金子 功さんは交流に尽くされた方として表彰されました。

横浜クラブ ブリテン11月『今月のひとこと』の寄稿「ワイズ理解月間に想う」では、「世界につながるワイズで喜びを一緒に味わいませんか。ワイズメンズクラブへの入会を強くお勧めします」と呼びかけておられます・・・。

深い悲しみの中から、私たち横浜クラブは故人の遺志をしっかり受け継ぎ、ワイズ・YMCAへの働きに、なお一層尽力して参る所存でございます。金子さんは、横浜クラブの私たちの心に、これからも生き続けます。

横浜クラブ会長 古賀健一郎

(1) 『かねてより病氣療養中の金子 功さんが、11月23日、天に召されました。』

謹んで哀悼の意を表します。葬儀等は、生前の金子さんのご遺志で近親者のみで行うとのことでした』

・横浜クラブ、湘南・沖縄部、東日本区の方々にメールでお伝えすることにした。

・クラブ会則に従って、『クラブ会員一同名』で弔電をお送りすることにした。

(2) 横浜クラブ創立90周年記念式(2020年12月12日)

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化している状況に鑑み、延期することに決定した。延期後の日程(3月頃を予定)については、役員会・関係者の皆様と打ち合わせながら、いろいろな環境を考慮しながら、ふさわしい延期日を模索していきたい。最悪は中止も選択肢に入れる。

(3) 横浜クラブの12月例会

クラブ創立90周年記念式を予定していた日時で例会を実施する。

ハイブリッド例会(Zoomでの参加を併用)で会場はささやかな人数で、1時間以内で例会を終える。例会の主な内容は、

天に召された金子功さんを偲び、Zoom参加者も含めて、皆で祈りを合わせる時としたい。



担当主事 奥菌 一紀

Amazonによる社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラムが、11月18日(水)よりスタートしました。クリスマスや年末年始のホリデーシーズンに、Amazonの「ほしいものリスト」を活用したチャリティキャンペーンとなります。

YMCAは、国内250カ所を超える拠点において、子ども・家庭・地域に寄り添いながら活動を展開しています。特に、働く保護者や家庭を支える保育、学童保育、発達支援事業、高齢者支援などのエッセンシャルな事業は、新型コロナウイルス感染拡大の中にあっても、感染を正しく恐れながら事業を継続しています。この冬休みも、全国約10万人の子どもたちがYMCAのプログラムに参加します。

2020年は特に、多くの子どもや若者が、豊かな自然体験や、多様な人と出会い交わる成長の機会を失いました。いまこそ、誰もが公平に夢を叶えるチャンスのある地域社会の創造が必要となります。Amazon「みんなで応援」プログラムの支援によって、多くの子どもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときを持ったり、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、ぜひご協力ください。

12月例会プログラム

日時：12月12日(土) 14:00~15:30

場所：横浜中央YMCA 606教室

司会：遠藤 喜七

1. 開会点鐘及び挨拶 古賀会長

2. ワイズソング・ワイズの信条 全員

(会場・Zoom参加者)

3. 今月の聖句 押川メネット

4. ゲスト・ビジター紹介 古賀会長

5. 「11月23日天に召された金子ワイズを偲ぶ」

6. ビジネス・報告 古賀会長

7. Happy Birthday 古田 伽知子

8. 閉会点鐘 古賀会長

例会報告：大高 治

1月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y+Zoom
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y+Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥菌一紀にご連絡下さい。

メール okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080